

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学びを通じて、自分のよさや可能性を認識し、多様な他者とつながり協働する力を育み、持続可能な社会の主体を育成する学校づくりをめざす。

- 1 様々な生活背景を抱える生徒を深く理解し、生徒のやる気を引き出し、基礎学力の定着と社会的自立に必要なスキルと態度を身につける。
- 2 様々な人との出会いを通じて共感性を高め、多様な他者を尊重する態度を育み、全ての生徒にとって学校が安全で安心な居場所となることをめざす。
- 3 自主活動の推進、系統的なキャリア教育、社会問題の理解を通して、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。

2 中期的目標

生徒が学びの豊かさを実感し、自尊感情を高め、他者と共感し、地域社会に貢献する力を育むために、教職員は専門性と同僚性を発揮し、生徒の変化・成長を活力とし分かち合う。

【生徒に育みたい力】 ① 自らを価値ある存在として大切にできる力 ② 他者に共感しつながる力 ③ 社会に主体的に参画できる力

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 「わかる授業」「生徒が受けたいと思う授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善に取り組む。

- ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
生徒の学習意欲を高めるための評価方法を研究し、自尊感情が高まる授業、やればできると実感できる授業をめざす。
- イ 生徒が「考える力」を身に付けることができるように授業内容を工夫する。(エンパワメントタイムの内容の充実を全教職員で取り組む。)
全ての教科で「授業を受けて何ができるようになるのか」を明確に伝え、生徒の「学習力」向上を意識した授業を実施し評価につなげる。
- ウ ICT機器を活用し、授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進めるとともに、教員の「授業力」の向上を図る。
全ての普通教室でインターネットがつながる環境を早期に整備する。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を、令和6年度には80%にする(R1・R2・R3:61%・71%・78.4%)

2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信

(1) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

- ア 様々な生活背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、「誰一人取り残さない」学校づくりをめざす。SC、SSWと連携し、生徒情報共有会議を密接に行う。
 - イ 保健室、カウンセリングルーム、図書室、関係機関との連携することにより、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
 - ウ 生徒会活動を活発にし、魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、部活動などの自主活動の活性化を図る。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みや相談を聞いてくれる」を、令和6年度には65%にする(R1・R2・R3:60%・64%・61.4%)

(2) 進路を保障する学校づくりを推進するためのキャリア教育の確立を図る。

- ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
日々の学習が進路実現につながることを意識し、1年生から3年後を考えた進路保障に取り組む。
 - イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
 - ウ 生徒の問題行動の背景・要因を深く掘り下げ、行動変容につながる指導援助を行い、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。
個々の生徒の状況に応じた寄り添った支援、生徒・保護者が納得できる指導と支援を実施する。
- ※ 就職内定率の向上をめざし、令和6年度も95%以上を維持する。(R1・R2・R3:100%・96%・98.3%)

(3) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

- ア 個の尊厳を重んじ、教職員自身が人権意識・人権感覚を研ぎ澄ますことで、人権尊重に貫かれた教育を徹底し、いじめや差別の未然防止に努める。
 - イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進し、大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「多文化共生は進んでいる」を令和6年度には80%にする(R1・R2・R3:71%・75%・72.5%)

(4) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

- ア 授業を積極的に公開するとともに、授業や行事等の高校生活の様子を学校説明会やホームページを通じて広報する。
- イ 「誰一人取り残さない学校」を中学校、中学生・保護者にアピールするとともに、生徒自主活動を活性化させて、「誰一人取り残さない学校」から「生徒自らが主体的に活動する学校」へのステップアップをめざす。
- ウ 地域と積極的に関わることでボランティア活動を活性化し、「地域を支える人材」として社会貢献できる生徒を育成する。

3 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、事務作業時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

- (2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。
- (3) 新型コロナウイルス感染症に関わり登校できない生徒の「学びの保障」の観点からICT環境を早期に整備する。
- (4) 新型コロナウイルス感染症対応で教職員の負担が増大させないために積極的に外部人材を活用し業務の効率化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【結果と分析】</p> <p><生徒向け>回答数 452 (昨年度 476)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「③長吉高校の授業は、わかりやすい。」については、全体として84.7%で、目標の80%を大きく上回った。各学年で80%を上回っており、教職員の授業改善や工夫が生徒に効果的に作用されていることがわかる。また、授業等で効果的にタブレットやICT機器を活用している(教員は90%以上、生徒アンケートでは80%以上)ことも、この結果に表れている。 ●「⑥長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う。」については、全体として72.4%で、目標の63%を大きく上回った。学年が上がるたびに増えていることは「正解が一つでない問題に取り組む」授業のエンパワメントタイムが各学年にあることが、よい結果に表れている。 ●「⑩悩みや相談に、ていねいに応じてくれる先生がいる。」については、全体として79.0%で、目標の65%を大きく上回った。特に2年生は、昨年時(1年生)のとき58.1%であったが、81.9%と大きく上回った。昨年は判断できないと答えた生徒が26%あったが、今年は0%であった。生徒の悩み対してきめ細かい対応を、教員全体として行っている成果だと思われる。 ●「⑫制限された中ではなるが、学校行事やHRは楽しい。」については、全体として82.7%で、目標の70%を大きく上回った。学年変化では見ると、昨年より増加しているのが、コロナ禍ではあるが、少しずつ学校活動も緩和されていくなかで、できることが多く(元の形)なったことが数値の上昇につながったと考えられる。 ●「⑭自分からあいさつやお礼を言うことができる。」については、昨年とほぼ横ばいの数値で、目標の80%を上回った。毎朝の校長、教職員による正門での声掛け等、学校全体での取り組みによる成果だと思われる。ただ、1年生の数値が一番高くなっているため、その数値を下がることにならないように取り組んでいかなければならない。 ●「⑲外国の文化に触れる機会が多く、多文化共生が進んでいる。」については、全体として86.5%で、目標の80%を上回った。昨年度は減少していたが、多文化共生を大きく推進するような特別な活動が、少しずつではあるが、元に戻ってきていることが影響していると考えられる。 <p><保護者向け>回答数 185 (昨年度 266)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「①学校はエンパワの教育方針を伝え、情報提供の努力をしている。」については、H29年度から63%→68%→74%→72%→76%で、今年度は85.4%と概ね高い数字を維持できている。学校からの連絡方法に、ホームページやライデンスクールに加え、今年度からSNSを導入した。これらのツールをうまく活用していることが、一定評価されたと思われる。 ●「⑪学校はていねいな進路や職業などについて丁寧な指導を行っている。」については、H29年度から56%→64%→58%→64%→61%で、今年度は74.5%であった。1、2年生の早い段階からの情報提供が課題であったので、今年度は保護者向け懇談会を早い時期に実施するなどの取り組みを行った。その結果、1年64.4%(R3年度49.5%)、2年82.2%(R3年度64.7%)、3年82.2%(R3年度68.5%)と高い数字となった。 ●「⑰担任やその他の先生に相談しやすい。」については、H29年度から60%→59%→62%→66%→68%で、今年度は71.3%と上昇している。1年62.8%、2年75.8%、3年80.0%で、学年を重ねるに従い保護者の信頼が増していることがわかる。また、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と否定的な回答は全体で19.3%→5.4%と大きく減少している。保護者との信頼関係を築いていけているのではなかろうか。 <p><教職員向け> 回答数 63 (100%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「①生徒は授業にまじめに取り組んでいる。」については、H29年度から42%→44%→41%→53%→58%で、今年度は65.0%と増加傾向となっており、生徒への質問「①私は授業にま 	<p>第1回 令和4年7月2日(土) (報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ES(エンパワメントスクール)5期生 卒業生の進路状況 ②ES8期生の状況報告 ③令和3年度学校評価及び令和4年度学校経営計画について ④スクールミッション策定について (協議内容・承認事項等) <p>○スクールミッション策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長吉高校では従来より生徒の自主性や主体性が重んじられてきた。理不尽に満ちた社会の中で十分に主体性を発揮し活躍できるような生徒を育成していくには、自分とは異なる他者と協同する機会を設けていく必要がある。長吉高校がこのような「生きる力」の形成をめざす学校であることが、地域社会にも伝わっていくようなスクールミッションであることが求められる。 ・歴史的にも理念としても長吉高校は主体性や参画を重んじるのであるなら、そのスクールミッションの策定は、生徒や教職員ら現場の声を反映するようなボトムアップ型の合意形成であることが望ましい。今回は、生徒、保護者からグループフォームでアンケートをとり、意見を参考にしながら校長がスクールミッションを策定することになった。 <p>第2回 令和4年11月16日(水) (報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和4年度 第1回学校運営協議会のまとめ ②令和4年度 1学期授業アンケートについて ③分掌・学年からの報告 ④スクールミッション策定について (協議内容・承認事項等) <p>○「学校の現状の理解と課題について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会に先立って授業見学を実施した。その感想等も含め、長吉高校生の授業に対する取り組みについて肯定的な意見が多く出た。 ・挨拶ができる生徒が増えてきている。社会にでてからも、とても重要なことである。 <p>また、企業としては、現在売り手市場であるが、コミュニケーション力は重要であること。それを身に付けるために、学校としての取り組みの充実を図っていかなければならない。</p> <p>○スクールミッションについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長吉高校の存在意義を十分取り入れており、地域から見ても長吉高校らしいものになっているとして承認された。 <p>第3回 令和5年2月4日(月)</p> <p><以下の内容についての報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和4年度 第2回学校運営協議会のまとめ ②令和4年度 2学期授業アンケートについて ③令和4年度 学校教育自己診断について ④令和4年度 学校経営計画及び学校評価について ⑤令和5年度 学校経営計画及び学校評価について ⑥スクールポリシーについて <p>①第2回学校運営協議会まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業とのコミュニケーション力を鍛えてほしいという意見があった。 ・修学旅行のアンケートは良かった。 ・課題として、ヤングケアラー対策、ルーツ生の活動の促進(松原マルシェなど)が挙げられた。 ・スクールミッションの協議 <p>②2学期の授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの回答者数は470名である。 ・アンケートの説明…アンケートは9つの質問で構成され、満点は4点となっている。 <p><アンケートの結果と分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の科目数は110科目(モジュールも含む)あるが、例年、学年が上がれば上がるほど選択科目が多いことやよくある2年生の「中だるみ」により、授業のわかりやすさ(質問項目の⑤～⑦)に関しては、1年生は数値が高く、2年生で数値が下がり、3年生で数値が上がるという傾向であった。しかし、今回は学年全体的に上がっていて、特に、2年生の数値が上がっていた。 ・興味・関心・達成感(質問項目⑧、⑨)の数値は前回とほぼ同じであった(しかし、2年生だけは増加傾向であった)。 ・今回のアンケートで全体的に数値が高くなった背景には、教員自身のスキルアップがあ

じめに取り組んでいる」は、H29年度から76%→79%→78%→86%→86%で、今年度は88.9%、「②長吉の生徒は授業にまじめに取り組んでいる」は、H29年度から44%→52%→60%→63%→54%で、今年度は56.7%であった。教職員と生徒の間で認識の差は大きい。

- 「⑥カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。」については、

H29年度から78%→87%→72%→77%→71%で、今年度は84.1%であり、大幅に増加した。

- 「⑩生徒や保護者の意見を聞く姿勢がある。」については

H29年度から87%→84%→90%→90%→92%で、今年度は95.2%と高い数値を維持しているが、生徒、保護者への質問「担任等と相談しやすい」は生徒が79.0%（R3年度62%）、保護者が71.3%（R3年度68%）で教員の思いと生徒、保護者の受け取り方には差があるが、昨年度より差縮まっている。

- 「⑰わかる喜びや学ぶ意欲を呼び起こし生徒の力を引き出す学校である。」については、

H29年度から50%→63%→64%→61%→85%で、今年度は98.0%で大幅に増加している。エンパワメントスクールに適した学校づくりに対しての共通の認識が持っていると考えられる。

- 「⑲学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」については、

H29年度から75%→69%→72%→63%→90%で、今年度は90.5%と高い数値を維持している。一昨年からソーシャルディスタンスの必要性があったが、昨年度からはうまく対応し、教職員間で日常的に情報共有する機会や時間がとることができたと考えられる。

- 「⑳教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。」については、

H29年度から58%→65%→62%→50%→87%で、今年度は84.1%とやや減少した。学校教育自己診断やアンケート、提案などを具体的な指導方針や方法として速やかに盛り込んでいったことが一定評価されたと思われる。

<教育庁等の指示により、この数年間で追加した項目について>

◆いじめについて

- ・生徒対象

「⑭いじめについて、困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」については、

H29年度から60%→66%→64%→70%→57%で、今年度は78.9%と大きく増加している。昨年度の低い数字を受けて、いじめや差別に対して教職員がアンテナを張り、丁寧に対応していることで生徒の教職員に対する信頼が少しずつ大きくなっていることの表れだと思われる。

- ・保護者対象

「⑫いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」については、

H29年度から37%→45%→44%→47%→47%で、今年度は71.9%であった。今年度、「わからない」と回答した保護者40%であったが、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」は20.0%で減少した。その部分が肯定的な回答になったと思われる。

- ・教職員対象

「⑬生徒間のいじめや差別につながる行動については未然防止に努め、事象が起きた場合には丁寧にかつ迅速に対応している。」については、

今年度は98.4%（R3年度98%）で高い数値を維持している。だが、教職員と生徒の意識に大きな差がある。否定的な回答した生徒は、今年度は20%（昨年度14%）と増加している。すべての生徒が安心した学校生活を送れるようさらに努めなければならない。

◆校則・指導について

- ・生徒対象

「⑮学校の校則や指導について納得できる。」については、

1年生51.7%、2年生55.7%（1年次63%）、3年生52.6%（2年次47%）と3年生について

ると考えられる。授業見学も活発におこなわれている。今後は、エンパワメント研修などの積極的な参加など、さらなる自己研鑽をすることが各々の教員の課題である。

③令和4年度学校教育自己診断

・保護者の回答率が非常に低くなっている。今後は、簡単な方法（グーグルフォームなど）や生徒への繰り返し連絡などが大切である。

・「授業がわかりやすい」の項目に関しては、全体として84.7%であり、これは目標の80%を大きく上回っている。

→これは教員の授業改善（クロームブックの使用（使用率90%）など）が考えられる。

・「教員は悩みや相談に、丁寧に応じてくれる」の項目に関しては、全体として79%であり、目標の65%を大きく上回っている。

・「多文化共生が進んでいる」の項目に関しては、コロナ禍が緩和され、全体として14%アップしている。

・「いじめについて、真剣に対応してくれる」の項目に関しては、生徒は78.9%、保護者は71.9%と大きく増加している。

・「校則や指導方針に納得している」という項目に関しては、半数程度の生徒が否定的であり、かつ、保護者も70%ぐらしか納得していない。

・まとめとして、コロナ禍により、ICT化が進み、授業のわかりやすさが進んだ。「授業がわかりやすい」の項目に関しては非常に良かったが、今後、これをどのように維持するかが課題である。

④令和4年度学校経営計画及び評価

・劇的に数値が上昇している。

・他の教員は謙遜して評価しているが、先般のコロナ禍の中、先生のチーム力が上手くいっていることをもっと強調しても良いと思うほど計画は順調である。

・生徒指導上の大きな問題はあったが、懲戒件数は減少傾向。生徒対応をチームで協力しあっていることも大きな要因。

・評価点は、悩みを聞いてくれる先生が多いという生徒の評価は良かった。委員会活動や学校行事が活発。エンパワに来て良かったと感じる生徒の数値目標（80%以上）を達成している、など

・課題点は、自主活動の伸長。部活はまだ活発ではなく、ルーツ生とそれ以外の生徒との交流が少ない。就職成果も健闘中。懲戒件数が多い。ICTで業務の円滑化は進んでいるが、業務ストレスを感じている教員はいる、など。

⑤令和5年度学校経営計画及び評価

・令和5年度は数値目標を少し変更しただけである。

⑥スクールポリシーについて

・スクールミッションをさらに具体化したものとして、スクールポリシー（カリキュラムポリシー、グラデュエーションポリシー、アドミッションポリシー）の案を作成し、お示しした。

<協議内容・承認事項等>

本協議では、今年度の学校経営計画の評価の分析、令和5年度の学校経営計画をスクールミッションを踏まえながら議論した。

今年度の学校経営計画の評価は、学校側の努力が生徒に還元されており、それが数値に繋がっていた。

ほとんど全ての項目において、生徒の評価が上がっているものが多く、協議委員からもこの状態を維持するようという意見をいただき、令和5年度の学校経営計画についても承認されました。

は、微増している。生徒全体としては53.3%（昨年度50.9%）で、半数程度の生徒が否定的な回答をしている。引き続き校則や指導の意味を丁寧に説明し、ルールや校則が自分たちのためであり、自分を守ることに繋がると思えるようなルールや指導内容を考えていくことが課題である。

・保護者対象

「⑭学校の校則や指導方針に共感できる。」については、
1年生63.9%、2年生72.6%（1年次76%）、3年生75.6%（2年次65%）と一定の理解は得ている。保護者の方の学校の校則や指導方針についての共感は少しずつ高まっている。

◆学校へ行く楽しみについて

・生徒対象

「⑰学校へ行くのは楽しい。」については、
1年生69.1%、2年生65.0%（1年次63%）、3年生70.2%（2年次60%）で、全体は67.2%（昨年度59%）と増加している。

・保護者対象

「④子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」については、
1年生74.4%、2年生64.2%（1年次78%）、3年生71.1%（2年次62%）で、全体は73.6%（昨年度66.5%）と増加している。

生徒、保護者ともに2年生では少し数値が低くなる傾向がある。

◆エンパワメントスクールへの満足度

・生徒対象

「⑳エンパワメントスクールに来てよかった。」については、
1年生90.5%、2年生83.8%（1年次78%）、3年生63.1%（2年次78%）で、全体は81.2%（昨年度76%）と大きく増加している。特に1年生が90%以上と高い数値が出ている。ただ、3年生の数値が10%以上減少している原因は追究しなければならない。

・保護者対象

「㉑子供をエンパワメントスクールへ入学させて満足している。」については、
1年生83.3%、2年生83.8%（1年次83%）、3年生82.2%（2年次73%）で、全体は83.3%（昨年度79%）と増加した。

令和4年度〈全体を通して〉

・昨年度に引き続きコロナ禍での学校生活が余儀なくされていたが、生徒、保護者、教職員もいい意味で順応し、少しずつ制限が少なくなっていくにつれて、学校行事も従来の形を戻しつつあった一年であった。また、コロナがもたらした部分は悪い部分だけではなく、昨年度の臨時休業等で学習面での保障の部分において、ICT化が急速に進み、そのことは授業改善に大きな影響をもたらした。結果、生徒が「授業が分かりやすい」と答えた生徒が80%を超えた数値となっている。

全体として数値が増加していることは、学校側の取り組みや指導方針が、ある程度生徒や保護者に理解されてることを考えられるが、その分、学校側に対する期待が大きいことの現れであると考えられる。特に1年生の数値が高いことが、そういったことをあらわしている。この1年生での数値を落とすことなく、3年間維持することが重要であると考えられる。そういった取り組みを学校全体で考え、実行していくことが今後の課題である。

・教育庁再編成備課の分析によると、「③長吉高校の授業はわかりやすい」「⑥自分の考えや意見を伝える力がついた」「⑩先生の指導は納得できる」「㉑学校行事に満足している」等の項目と「学校満足度」を問う項目は相関関係があるといわれて、今年度は③⑥⑩㉑のすべての項目について増加しており、満足度も75.9%→81.2%となり、初めて80%を超える結果となった。エンパワメントスクールの達成目標である「エンパワメントスクールに来てよかった」が80%以上となり、今後、この数字を落とすことなく、生徒・保護者の意見を聞きながら工夫した取り組みを行う必要がある

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3年度値]	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	<p>(1) 「わかる授業」「考える力が身に付く授業」をめざした授業改善。</p> <p>ア 「わかる授業」づくりのための授業改善</p> <p>イ 「考える力が身に付く授業」づくりのための授業改善</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業のユニバーサルデザイン化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒の学習状況(実態)に基づいて授業の見直しを行う。その際、取組みの工夫を各教科で提案し教員全体で共有する。</p> <p>イ 新学習指導要領を見据え「考える力を生徒自らが身に付けることができる授業」の開発に取り組む</p> <p>ウ 研修等で電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。授業におけるナチュラルサポートを実践。(生徒の努力や取組みをほめる機会を多くつくる。等)</p>	<p>(1) 公開授業週間等を活用し教員相互の授業見学を2回以上実施する。</p> <p>ア・他校の参考になる授業等を見学し、教科共有する取組を1回以上実施する。</p> <p>・公開授業週間を年間2回以上実施する。</p> <p>・学校教育自己診断結果における生徒の授業満足度70%以上の維持 [78.4%]</p> <p>イ・「考える力を育む授業」「多面的な評価方法」について少数での意見交流ができる教員研修を2回以上実施する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)の「ICT機器の活用」項目の肯定的回答80%以上の維持 [83.3%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・エンパワメントスクール5教科研究授業に参加し教科で共有。(○)</p> <p>・6月、11月に公開授業週間を実施し、教員相互の授業見学を151回実施。授業見学教頭69回、校長125回(◎)</p> <p>・「授業のわかりやすさ」肯定的回答は学校全体では84.7%(◎)</p> <p>イ・エンパワメントタイム研修会を本校で実施し研究協議。英語教育推進中核教員研修における研究授業及び研究協議を本校で実施。(○)</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)の「ICT機器の活用」項目の肯定的回答90.5%(◎)</p> <p>【自己評価】 目標を大幅に達成。教員の研鑽の成果。</p>
2 安全安心で魅力ある学校づくりと学校の魅力の積極的な情報発信	<p>(1) セーフティネットの拡充</p> <p>ア 「誰一人取り残さない学校」づくり</p> <p>イ 図書室の活性化</p> <p>ウ 学校行事の改善 部活動の活性化</p> <p>(2) キャリア教育の確立</p> <p>ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上</p> <p>ウ 社会的自立に必要なスキル・態度の育成</p> <p>(3) 人権教育の推進</p> <p>イ 多文化共生の学校</p>	<p>(1)</p> <p>ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導</p> <p>・1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。</p> <p>・保健・カウンセリング部と各学年・分掌との連携の強化。</p> <p>イ 図書室を充実させ居場所を作る。</p> <p>ウ 生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。</p> <p>・新入生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教職員で取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・3年間を見通したキャリア支援計画を検討し具体化する。</p> <p>・本校に配置される外部人材(CC、SSW、SC)の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。</p> <p>イ・教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p> <p>ウ・問題行動の未然防止に取組み、社会的自立に必要なスキルと態度を育成する。</p> <p>・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。</p> <p>※(1)(2)(3)を通じて生徒の学校満足度を高める</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の肯定的回答65% [61.4%]。</p> <p>・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」(保護者用)の肯定的回答67%以上の維持 [68.1%]</p> <p>イ・図書委員会を年1回以上開催する。</p> <p>ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒用)の肯定的回答70%以上の維持 [71.2%]</p> <p>・年度末における1年生の部活動加入率40%以上をめざす。[40%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・就職内定率95%以上の維持 [98.3%]</p> <p>・外部人材を講師とする校内研修を年間1回以上実施する。</p> <p>イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」(生徒用)の肯定的回答63%以上の維持 [63.2%]</p> <p>ウ・懲戒件数を前年度以下に減少させる。[139件]</p> <p>・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」(生徒用)の肯定的回答80%以上の維持 [83.4%]</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる行事を1回以上企画する。</p> <p>※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)の肯定的回答70%以上の維持 [75.9%]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の肯定的回答79%(◎)</p> <p>・学校教育自己診断「担任等に相談しやすい」(保護者用)の肯定的回答71.3%(○)</p> <p>イ・全体の図書委員会を1回。文化祭前の担当者の図書委員会を1回開催。図書委員による図書当番も実施(◎)</p> <p>ウ・学校教育自己診断「学校行事に満足している」(生徒用)の肯定的回答82.7%(◎)</p> <p>・年度末における1年生の部活動加入率32%(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア・就職内定率100%(◎)</p> <p>・「福祉的就労について」研修会実施。(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断「自分の考えや意見を伝える力がついた」(生徒用)の肯定的回答72.4%(◎)</p> <p>ウ・懲戒件数を前年度以下に減少させる。95件(◎)</p> <p>・学校教育自己診断「あいさつやお礼を言うようになった」(生徒用)の肯定的回答86.5%(○)</p> <p>(3)</p> <p>イ・外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる校内行事(校内Wa i Wa i t a l k、多文化研究会文化祭バザー、等)、校外行事(教育庁、研究会主催、大阪マラソン通訳ボランティア、等)多数参加交流。(◎)</p> <p>※「エンパワメントスクールに来て良かった」(生徒用)の肯定的回答81.2%(◎)</p>

府立長吉高等学校

	(4) 中学校等への広報強化 ア 授業公開	(4) ア・公開授業週間に授業を公開し、保護者及び中学校の先生方に見学してもらう。 ・HPを通じて生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。	(4) ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業を2回以上実施する。 ・学校行事や授業の様子をHPで紹介する。(年間3回以上更新する。)	(4) ア・保護者や中学校教員に向けた公開授業 6月、11月に 実施(○) ・学校行事や授業の様子をHPで逐次紹介できた。(◎) 【自己評価】 目標を大幅に達成。ミッション遂行に向けた教職員のチーム力の成果。
3 ICT を 活用 した 校務 の 効率 化	(1) ICT等の活用による校務の効率化 (2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成 (3) ICT環境の早期整備	(1) 校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する。 (2) ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。 (3) 家庭学習を視野に入れたICT環境を整備する	(1) 一部の教職員に集中する校務を削減し、ストレスチェックの総合健康リスクを前年度以下とする[100] (2) 教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を学期に1回以上実施する。	(1) ストレスチェックの総合健康リスク 98(◎) (2) 経験年数の少ない教員研修 10回 実施。(◎) (3) 「電子黒板等ICT機器を活用し、授業を行った。」(教員用)の肯定的回答 90.5%(○) 【自己評価】 目標を大幅に達成。本来業務である生徒のエンパワメントに集中できる環境整備が今後とも課題。